



平成 25 年 3 月  
文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課  
<http://danjogaku.mext.go.jp>



男子学生のための  
男女共同参画  
ワールド・カフェ

# 100人 男子会

[報告]

日時：平成 25 年 2 月 26 日 (火) 13:30～17:30

場所：文部科学省 3 階講堂

主催：文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課

後援：内閣府男女共同参画局

# はじめに

平成 25 年 2 月 26 日 (火)、文部科学省にて「100 人男子会 男子学生のための男女共同参画ワールド・カフェ」を開催しました。

このワールド・カフェは文部科学省における男女共同参画社会の形成に向けた取組の一つとして、これから社会で活躍する男子学生に、男女の働き方や家庭生活に関する現状を知っていただき、男女が共に活躍できる社会について考えていただくことを目的に実施したものです。

当日は様々な大学、学部、学年の男子が参加し、学生同士の率直な議論が行われました。本報告書にて当日の様子をお伝えいたします。

## [参加者について]

参加人数：57 名

学部：文学部、法学部、経営学部、社会学部、工学部、理工学部、教育学部、医学部 等

学年：1 年 7 名、2 年 15 名、3 年 17 名、4 年 11 名、5 年 1 名、無回答 6 名

年齢：19 歳～ 37 歳

## プログラム

主催者挨拶  
本日の流れ、ゲスト紹介

### ミニミニ 講義

ワールド・カフェの準備として、男女共同参画の基礎知識を学ぶためのミニミニ講義を行います。

## ワールド・カフェ

### 第 1 ラウンド 問 1

ファシリテーターから出される「問い」に対し、各テーブルで議論を行います。

### 第 2 ラウンド 問 1

### 第 3 ラウンド 問 2

### 振り返り セッション

これまでの議論を振り返りながら、付せんへ意見を記入します。

### 第 4 ラウンド まとめ

付せんをグルーピングしながら意見を集約します。また、各テーブルの意見の要約を作成します。

### ギャラリー ウォーク

休憩時間を利用して、各テーブルの付せん、要約を見て歩き、情報共有します。

### 全体 セッション

各テーブルから提出された要約を用い、会場全体で意見交換します。

### ゲスト コメンテーター からのコメント

ワールド・カフェ全体について、ゲストコメンテーターがコメントします。

閉会

01

02

## ゲストコメンテーターの紹介

### 萩原 なつ子

立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科教授  
認定特定非営利活動法人  
日本 NPO センター 副代表理事



内閣府「男女共同参画推進連携会議」議員。前文部科学省「中央教育審議会生涯学習分科会」委員。大学で教鞭をとる傍ら、市民参加型の様々なワークショップに関わっており、広範なネットワークを生かして、ユニークで斬新なイベントを仕掛けている。

### 安藤 哲也

特定非営利活動法人  
ファザーリング・ジャパン  
副代表理事



1962 年生まれ。二男一女の父親。出版社、書店、IT 企業など 9 回の転職を経て、2006 年に NPO 法人ファザーリング・ジャパンを設立。厚生労働省「イクメンプロジェクト推進チーム」座長、内閣府「男女共同参画推進連携会議」議員、内閣府「ゼロから考える少子化対策プロジェクトチーム」メンバー、観光庁「休暇改革国民会議」委員、東京都「子育て応援とうきょう会議」実行委員なども務める。

## ワールド・カフェとは？

ワールド・カフェとは小グループで席替えを繰り返しながら議論を深める話し合いの手法です。あたかも参加者全員が話し合っているような効果が得られます。

ワールド・カフェを進行するファシリテーター役の古瀬正也さんと小川直也さん



# ≡ 二 ≡ 二 講義

講師：萩原 なつ子氏

立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科教授  
認定特定非営利活動法人日本NPOセンター副代表理事

## 男女共同参画社会とは？

さっそくですが「男女共同参画社会基本法」を知っている方はどれくらいいますか？（一ほとんどが拳手）すばらしいですね。もしかしたら今日のワールドカフェは違う展開になるかもしれませんね。1999年にできたこの法律は「男女の人権の尊重」「社会における制度又は慣行についての配慮」「政策等の立案および決定への共同参画」「家庭生活における活動と他の活動の両立」「国際的協調」という5つの理念からつくられています。

「男女共同参画社会」とはということかと言いますと、男女平等であること。性別にかかわらず、その人らしく伸びやかに生きられる社会。そして、個人がそれぞれ自分にふさわしい

生き方、ライフスタイルを選択できる社会です。例えば皆さんの目の前にお菓子があります。6種類くらいあると思いますが、6種類あると選ぶ楽しみがありますよね？もしこれがお煎餅しかない場合は、お煎餅が嫌いな人は選ばせません。ですから、選択肢がある方が、お菓子選びも楽しいし、自分の生き方も楽しいと思うんです。

つまり選択肢があることによって生き方が多様になっていくということ。だから、誰もが働くこと、家庭生活、地域生活を楽しむことができる。そういう社会を作って行こうというのが、男女共同参画社会の一番の目的です。

## 男女格差、日本は最低水準

この数字の意味は？

# 101

この「101」という数字、何を表したものかわかりますか？世界経済フォーラムという国際団体が毎年各国の男女格差を順位付けしているのですが、2012年の報告では日本が135カ国中101位ということでした。教育とか健康の順位はまだよいのですが、経済は102位。政治は110位です(図1)。日本は先進国最低水準評価。これが現状です。日本は先進国ですが、男女共同参画という面では女性の地位が非常に低いんですね。首位はアイスランドです。昨日はお隣り韓国でついに女性の大統領も誕生しました。

この数字の意味は？

# 202030

では「202030（ニーマルニーマルサンマル）」、この数字の意味は？これは、2020年までに、指導的地位に女性の占める割合を少なくとも30%にするという政府の目標のことです。例えば、議会の議員とか、専門性の高い職業に従事する者、審議会等の女性委員、そういう人たちを30%にしましょうというのが「202030」です。なぜこんなことを国は一生懸命やろうとしているのでしょうか？

この数字の意味は？

# 54 / 480 → 38 / 480

次の数字「54 / 480 → 38 / 480」、これは衆議院の女性議員数です(図2)。480人中54人だったのが、昨年末の選挙でなんと38人になってしまいました。「202030」をやろうとしている意味がちょっとわかっていただけましたか？

地域コミュニティなどの自治会長も、女性の割合は4.4%です(図3)。学校の先生の場合は、小学校は女性の先生が圧倒的

【図1】男女共同参画に関する国際的な指標

GGI	2012年公表	順位	国名	GGI値
[ジェンダー・ギャップ指数] 101位 / 135か国	経済、教育、保健、政治の各分野毎に各使用データをウェイト付けて総合値を算出。その分野毎総合値を単純平均してジェンダー・ギャップ指数を算出。 0が完全不平等、1が完全平等	1	アイスランド	0.864
		2	フィンランド	0.845
		3	ノルウェー	0.840
		4	スウェーデン	0.816
		5	アイルランド	0.784
		6	ニュージーランド	0.781
		7	デンマーク	0.778
		8	フィリピン	0.776
...	...	...	...	
101	日本	0.653		

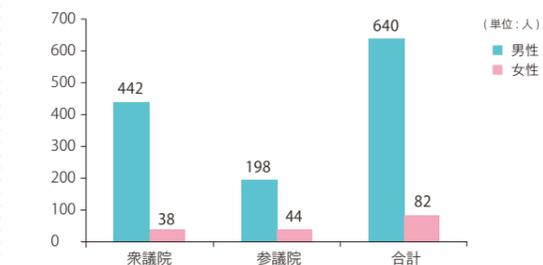
【参考】日本の各分野の順位とGGI値

経済分野 102位 (0.576)、教育分野 81位 (0.987)  
保健分野 34位 (0.979)、政治分野 110位 (0.070)

出典 世界経済フォーラム The Global Gender Gap Report 2012より作成

【図2】国会議員数

国会議員全体 男性：88.6%、女性：11.4%  
衆議院議員 男性：92.1%、女性：7.9% / 参議院議員 男性：81.8%、女性：18.2%



備考 衆議院：平成24年12月28日現在、参議院：平成24年1月23日現在

【図3】自治会長数

男性：222,332人 (95.6%)、女性：10,192人 (4.4%)



備考 1. 内閣府「地方公共団体における男女共同参画社会の形成又は女性に関する施策の推進状況」(平成24年度)より作成。  
2. 調査時点は原則として平成24年4月1日現在であるが、各地方自治体の事情により異なる場合がある。  
3. 回答のあったものうち、男女別の数を把握しているもののみ掲載している。  
出典 内閣府男女共同参画局「全国女性の参画マップ」(平成24年12月)



に多くて、中学校になると男性教師が少し多い。高校は男性教師がずいぶん多くなります。大学になると、女性教授は13.4%しかいません(図4、5)。大学に通う女子は多いと思います。特に社会科学分野。でも教授となると、こんなに少なくなってしまうんですね。これらから見ても「202030」を進めて行かなくてはいけないという風に思えます。

企業で見ても、部長とか上の役職になるに従って女性の数が減っています(図6)。なぜこんなに減っていくのかということで、女性の年齢階級別就業率の変化のグラフを見ていくと、30歳後半を底とするM字カーブを描いています。(図7)。私自身はこれまで4回転職していて、最初は結婚と同時に辞めました。慣習というものがあつたからです。法律で決められているわけではないですが、結婚したら辞めなくてはいけないという慣習が根強かつたんです。その後就職しましたが、今度は赤ちゃんが産まれたので辞めざるを得ませんでした。だからこのM字カーブののっついています。

だけど男性の場合は、結婚や出産で退職する人はあまりいないですよ。ですから、さきほどのグラフは台形になります(図8)。共働き世代の調査をしてみると、実は仕事と育児の二者択一を迫られるのはどうしても女性であり、それが結局、M字カーブになるわけです。また、仕事をしてきた女性の6割が出産を機に退職していて、その4分の1が仕事と子育てを一緒にやりたかったけど続けられなかったという調査結果もあります。職場や家庭、地域では、男女の固定的性別役割分担意識があまりにも根強いために、こう生きたいな、こうありたいな、という選択の幅が狭められているのが現状なのです。

## ワーク・ライフ・バランスを考える

続いて、6歳未満の子どもを持つ妻・夫の家事関連時間についてです。夫が家事・育児に費やす時間は非常に少なく、59分。共働きの場合で、妻の家事・育児時間は5時間37分(図9)。この差は大きいですよ？これでは女性の二重負担、三重負担になってしまいます。

今、イクメンプロジェクトというものがあります。イクメンとは子育てを楽しみながら、自分自身も成長する男性です。日本の男性の家事・育児時間は最低水準なので、それを上げている



くにはどうしたらいいのかということで、ワーク・ライフ・バランスという考え方が出てくるわけです。仕事と生活が調和することで、多様な活動ができるようにする。すると、さまざまな顔を持つ人間ができます。私の本職は大学の教員ですが、NPOにも関わっています。複数の顔を持つことができる、そういうワーク・ライフ・バランスという考え方がこれから重要になってくると思います。

一方で、最近は男性も変わって来たなと私は思っています。これは満員電車での経験ですが、ある時、電車に赤ちゃんを抱いたお父さんが入ってきました。これが20年前であれば「なんでこんな満員電車に赤ちゃんを！」と嫌な顔をされたでしょう。でも、その時は違いました。乗っていた人たちが赤ちゃんを守ろうと、丸く囲むように距離をあけたんです。で、その赤ちゃんを見てニコッと笑っているんですね。変わってきたなと感じました。

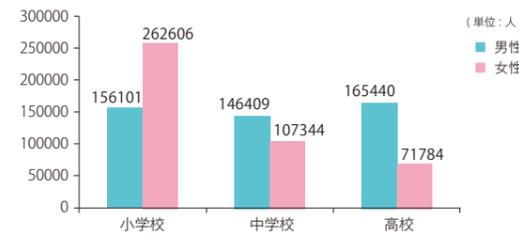
## 「カエル! ジャパン」で何かが変わる

さらに、内閣府が進めている「カエル! ジャパン」の取組ではキャッチフレーズに“ひとつ「働き方」を変えてみよう!”というのがありますが、この「働き方」の部分をいろいろ変えていただきたいんです。「生き方」でもいいし「考え方」でも「遊び方」「関わり方」でもいい。変えることによって何かが変わると思います。

そして今日は、これからの2時間45分、ワールド・カフェを通して、自分自身を見つめる時間だったり、いろんな人の意見を聞く中で、これからどんな生き方ができるだろうかということも一緒に考えて欲しいと思います。今日は男子しかいません。とにかく自由にお話してください。そこから気づきがあつたり、いろいろな人の考え方を聞くことによって充実した時間になることを期待します。では、どうぞお楽しみください。

【図4】 教員数(小・中・高)(男女別)

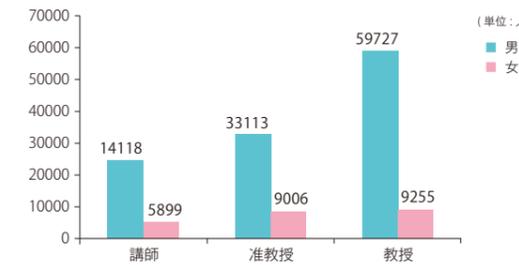
小学校 男性:156,101人(37.3%)、女性:262,606人(62.7%)  
 中学校 男性:146,409人(57.7%)、女性:107,344人(42.3%)  
 高校 男性:165,440人(69.7%)、女性:71,784人(30.3%)



備考 教員数は本務者。平成24年5月1日現在。  
 出典 文部科学省「平成24年度学校基本調査」

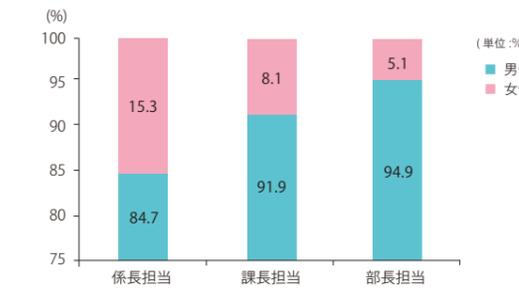
【図5】 教員数(大学)(男女別)

講師 男性14,118人(70.5%)、女性5,899人(29.5%)  
 准教授 男性33,113人(78.6%)、女性9,006人(21.4%)  
 教授 男性59,727人(86.6%)、女性9,255人(13.4%)



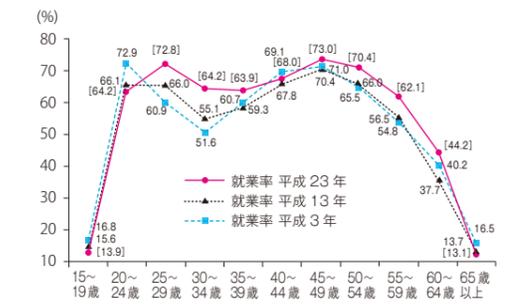
備考 教員数は本務者。平成24年5月1日現在。  
 この表の教員数には、学長、副学長を含まない。  
 出典 文部科学省「平成24年度学校基本調査」

【図6】 役職別管理職に占める男女の割合



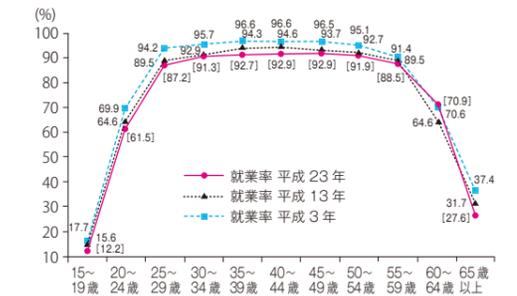
備考 厚生労働省「賃金構造基本統計調査」より作成。数値は平成23年。  
 出典 平成24年度版男女共同参画白書

【図7】 年齢階級別就業率の変化(女性)



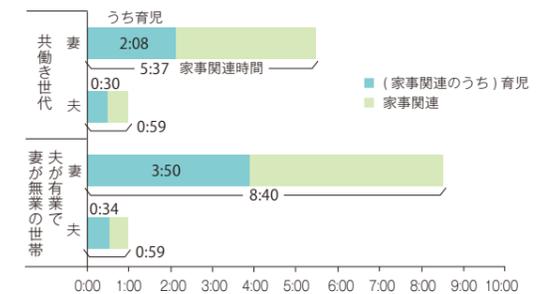
備考 総務省統計局「労働力調査」  
 注)平成23年の比率は、岩手県、宮城県及び福島県を除く全国の結果。  
 出典 厚生労働省「平成23年度版働く女性の実情」

【図8】 年齢階級別就業率の変化(男性)



備考 総務省統計局「労働力調査」  
 注)平成23年の比率は、岩手県、宮城県及び福島県を除く全国の結果。  
 出典 厚生労働省「平成23年度版働く女性の実情」

【図9】 6歳未満の子を持つ妻・夫の家事関連(うち育児)時間(週全体)



備考 総務省統計局「社会生活基本調査」(平成18年)  
 出典 厚生労働省「平成23年度版働く女性の実情」

# ワールド・カフェ

1995年にアメリカで開発され、世界中で行われているワールド・カフェ。日本でも全国各地で行われています。今回は一つのテーブルに4名が座り、席替えを繰り返しながら議論を行いました。各ラウンドで出される「問い」について議論し、模造紙や付せんを用いながら、各テーブルごとに意見や考えを整理していきました。



ミニミニ講義が終わり、いよいよワールド・カフェが始まります。最初の席替えです。



ファシリテーターも場内を動いてワールド・カフェを進行させます。



当日の様子はインターネットで配信されました。



「9マス自己紹介」を行います。自己紹介シートを使い、9マスの真ん中に自分の名前、残りの8マスに自分に関するキーワードを入れていきます。



キーワードを見せながら、自己紹介。早くも会場は盛り上がります。



## 話し合いの3つの進め方

1. トーキング・オブジェクトを持って話す
2. 模造紙は共通のメモ帳
3. 手を挙げたら終わりの合図

## 話し合いの3つのルール

1. 素直に!
2. Not 否定!
3. Yes 自分事!



ファシリテーターから今回のワールド・カフェの流れ、ルール、アイテムの使い方の説明があります。



## ファシリテーター紹介



### 古瀬 正也

古瀬正也ワークショップ  
デザイン事務所代表/  
立教大学大学院修士2年

1988年生まれ。2008年にワールド・カフェを体験し、対話に興味を持つ。2010年に全国47都道府県でワールド・カフェを開催し、約1200名が参加。2013年に修士論文「ワールド・カフェデザインの可能性」を執筆。現在はフリーのファシリテーターとして活動中。



### 小川 直也

立教大学大学院修士2年

1985年生まれ。2008年からコミュニティ・カフェという地域コミュニティ創出の事業に携わる。港区「芝の家」板橋区「コミュニティ・カフェ・グリーン」に在籍し、ラジオを用いたワークショップを実施。修士論文は「都市におけるコミュニティ・カフェに関する研究」を執筆。

# 第1ラウンド

[20min.]

## 問1

なぜ、こんなにも男と女の差があるのでしょうか？  
何がその差をつくり出していると思いますか？

ファシリテーターの合図で「問い」の入った封筒が開けられます。「問い」はミニミニ講義で触れられた男と女の差に関するもの。男子学生だけの議論の始まりです。



まず、問1を封筒から取り出します。



模造紙は共通のメモ帳です。話していて「いいな」と思ったり、「気づいたこと」を書きます。



ふむふむ



「トーキング・オブジェクト」にはボールを使用。話をする人はそれを持って話すというルールです。



発言を受けてまた、自分の考えを  
発展させていきます。



だんだん  
会話が活発に!



ファシリテーターが手を挙げたら、  
終わりの合図。気づいた人から手を挙げ、  
全員が手を挙げたらラウンド終了です。



## 第2ラウンド

[20min.]

問いへの探究を行うため、同じ問いをもう1ラウンド行います。ファシリテーターから「何がその差を作り出しているのか。差を作り出していることに自分も関わっている部分はないか。自分の問題としてもう一度考えてみてください。」とコメントがあり、第2ラウンドが始まりました。



再び席替えをして、第2ラウンドに入ります。



第2ラウンドの問いも第1ラウンドと同じです。違うメンバーと話すのでまた異なる意見がでてきます。



色とりどりのマーカーで自分の考え、他の人の意見などどんどん書き込んでいきます。



萩原教授や安藤氏もテーブルの近くで話を聞いています。



なるほどね!

そういう考えも...



ワールド・カフェのルールにも慣れてきました。活発な意見が飛び交います。



第2ラウンドが終わったところで休憩です。

「仕事と家庭の両立がしづらい社会なのは?」

「なぜ、北欧諸国はGGIの順位が高いのだろう?」

「文化? 慣習?」

「男の求める幸せと女の求める幸せは違う?」

「家庭科は女子のほうが得意。でも、シェフは男性が多い。なぜかな? ... 評価する人が男性だから?」

## 第3ラウンド

[20min.]

### 問2

その差を埋めるためには、何が必要だと思いますか? あなたは何ができそうですか?

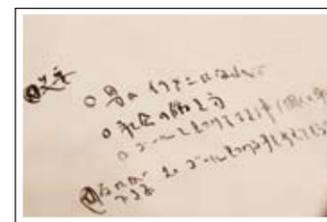
これまでの議論を受けて次の問いが出題されます。新たな問いの入った封筒を開け、第3ラウンドが始まりました。



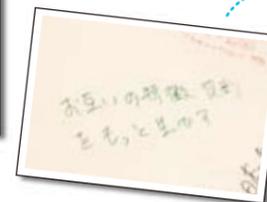
問2を封筒から取り出します。



ファシリテーターの古瀬氏が問2の説明をします。



「仕事」「家庭生活」考えることはたくさんありそうです。



話はずきません。会場も熱気を帯びてきました。

いろんな考えが出るね



自分の考えが広がり意見がどんどん出るのがワールド・カフェのよいところです。



第3ラウンド終了。

「制度を整える。意識も変える。」

「ロールモデルが少ない。」

「男性にとってよりよいライフスタイルって?」

「イクメンって流行っているの?」

※ワールド・カフェでの参加者の発言又は模造紙のメモを要約。

# 振り返りセッション

[10min.]

第3ラウンドを終え、これまでの議論を振り返りながら、気づいたことや考えたことを付せんに書いていきます。議論の流れを踏まえ「その差は、これからどうあるべきだと思いますか?」「ありたい姿や社会にするために自分はどうありたいですか?」という2つの問いに各人の意見を書くことにしました。



第1ラウンドの席に戻ります。ここで改めてファシリテーターから「男女共同参画社会」について説明がありました。



付せんを使って振り返りセッションを行います。



各々付せんに自分の意見を書き出していきます。

真剣!

## (1) その差は、これからどうあるべきだと思いますか?

- 今後の生産人口を考えると差を縮めるべき
- 職業選択に関する男女差をなくす。
- 機会の差は平等にすべき。
- 男と女の「肉体」上の差を無くすことは無理だが、「思考」の部分には差はないので、社会地位での差はなくすべきだ。
- 結果としての差はあってもいいと思うが、選択肢・機会の差は是正すべき。
- どの社会も女性を参加させ、同じ業種の賃金格差を減らしていくべきだと思う。
- 教育によって改善すべき。教育は学校教育だけでは限らない。
- 男女の違いだけを理由とする理不尽な差はなくすべき。
- 差があることが問題ではなく、差によって生じる格差が問題であると思う。
- 男性と女性が話し合う機会を持つ。
- まずは知ること。そして発信することが必要。
- 女性にとって生きやすい社会のためにある程度女性の視点が必要。
- 男が外、女は内という家庭もあって良いが(中略)あくまでその男の人自身が外で働きたくて、その女の人自身が主婦をしたくてそうしているという形であるべき。
- 男性の役割、女性の役割を社会で勝手に決めないこと。
- ある程度の差が生じるのは仕方がない。

## (2) ありたい姿や社会にするために自分はどうありたいですか?

- 今日の話合いの内容を友人や家族に伝える。
- 今まで家事など親に任せていたことを自らやる。洗濯、皿洗いなど。
- 積極的に育児休暇をとる。
- 家事も仕事もできるカッコイイ父になりたい。
- 主夫でも主婦でもない家庭をつくりたい。互いの時間などの都合で変えていく。
- ワーク・ライフ・バランスを実践する。
- 男、女といった大ざっぱなカテゴリーで物事を考えず、その人がどうなのか、具体的に考えるようにしていく。
- 共同参画への継続的な活動
- 自分以外の人間の価値感を認識。
- 各々が特性を活かすことが出来る関係や職場作りを推進していく。
- 何に対しても「当事者意識」を持てる人でありたい。
- 「イクメンはいいぞー」と社会へ投げかける。
- 男性が抱えている責任の部分も一緒に分かち合っていく。気づかずに不自由さを抱えている人がいれば、一緒に考えていく。
- 地域でサポート
- 本当に何がしたいのか。対話を通じて考える習慣。
- 女性を理解するようにする。その上で違いを理解し相手の大変な部分を認める。
- 男女・男男・女女での話す場をつくる。
- 身近なロールモデルを作る。

※参加者の付せんから抜粋(一部言葉を補う)。

# 第4ラウンド

[20min.]

第4ラウンドでは、振り返りセッションで記入した付せんをグループ化しながら意見を集約。各テーブルの意見をまとめました。



それぞれのまとめ方についての説明がありました。



新しい模造紙を広げ、付せんをグループ化し、まとめに入ります。



4人のまとめを作ります。クライマックスに近づき、みんな熱くなってきます。

そうだね!



だいぶ整理ができてきました。



各テーブル、A4用紙に要約を記載し、提出します。

## ギャラリーウォーク



休憩時間を利用して各テーブルをまわり、他のテーブルの意見をみていきます。

休憩中も話が弾みます。

# 全体セッション

最後に全体セッションとして、各テーブルの意見の要約をスクリーンに映し、意見を共有します。補足説明や全体を通じての感想を述べ、意見交換を行いました。

各テーブルでの議論を紹介しながら、発表が続きます。



## 各テーブルからの主な発言 (要約)

要約1としては「『半育児』・『半働く』」ができる選択を増やし個が尊重できる社会がいい。」とまとめました。

育児と働く事をフィフティ・フィフティにするということではなく、どういうバランスがよいかを考え続けることで選択肢を増やしていくことが大事という意味を込めています。

要約2としては、「まず『自分が自分らしく生きる』そして育児について『他人と語る場をつくる。』」とまとめました。自分が自分らしく生きれば他人も尊重できると思う。また、いろんな人といろんな問題について話したり聞いたりして、自分の考えをつくる場があるといいと思いました。

初めて、ワールドカフェに参加したけど、自分の話を聞いてもらえるのはいいなと思った。僕は理系だけど、同年代の文系の人と話し合う機会がないので、今日は話ができてよかった。

### 【要約 (1)】

その差は、これからどうあるべきだと思いますか？

差は減っていくべき  
 目的・制度をつくる側、運営の側が  
 男性だけではない、女性も！  
 目的・当事者を意識をすべき！

選択の幅を増やし、差を慣習など  
 なくしていくのではなく、やり方ごと  
 本来の特性を生かした結果から  
 生じるポジティブなものに  
 なっていくなあ。

半育児  
 半働く  
 個人尊重できる社会  
 がいい

男・女の二元論で考えるべきでなく、個人の  
 多様性を活かす働き方を通ずるようになっていく  
 "個人の多様性"  
 "性を理由にしない社会"

### 【要約 (2)】

ありたい姿や社会にするために自分はどのようにしたいですか？

相手のことを尊重し  
 他者の考えを共有して  
 実際に自分でも行動  
 する。

まず「自分が自分らしく生きる」  
 育児  
 育児には「他人と語る場を  
 つくる」

自分達の都合を押し通せる企業文化  
 や制度を構築する  
 "補う社会"

学校やメディアを通し男女両方  
 に対する多様な価値感に気  
 がけさせること、  
 固定概念を無くす。



## ゲストコメンテーター からのコメント

安藤 哲也氏

NPO法人ファザーリング・ジャパン副代表理事

萩原 なつ子氏

立教大学大学院教授  
認定NPO法人日本NPOセンター副代表理事

### 一人一人の意識のOSをバージョンアップ!

ワールド・カフェの様子を、横で非常に楽しく見ていました。全体的な印象から言うと、まず僕が大学生だった30年前は、こういうことを何も考えていなかったなということ。20代の頃はバブル経済で、1回の冬のボーナスが100万円なんていう時代でした。ようするに僕の学生の頃は、日本はこれから良くなるんだという、経済が男女の差すら飲み込んでしまうような時代。なので、今日は本当に時代は動いているんだと感じました。それはやはり経済の衰退とか家族モデルの変化ですね。皆さんの間でも「男尊女卑」という言葉が出ていたけれど、今はそういうことも言っていられないということを感じているのかなと思いました。だからどの意見を聞いていてもリベラルだし、寛容性を強く感じました。一人一人の硬さ、軟らかさの多少の違いはあるけれど、それは恐らく生育環境とか学校の環境の違いからのものでしょう。



僕はNPOで父親支援をしていて、全国2万人のお父さんに会っています。その時に必ず言うのは、もしも結婚して子どもを持つ人生を望むのであれば、子どもができる前にOSを入れ替えようということ。つまり、自分の中にあるOS、特に男性の持っている父親的OSみたいなものが、自分の父親が生きていた古い時代、職場で言えば上司みたいな時代のものと、パートナーが結婚後も働きたいという考えの持ち主であればいろいろな問題が起きてきます。もちろんOSを入れ替えて笑顔で育児と仕事を両立しているパパもいます。実際そういう人が増えているけれど、一方で古いOSが原因で離婚やDV、子どもが大変な目にあっている家庭も僕はいっぱい見えています。だから、自分のOSのバージョンは今どれくらいなのかを考えて欲しいんですね。一方、女性は妊娠した瞬間にOSが新しいものにアップされ、その時点でママスイッチが入るんです。でも、男性はパートナーが妊娠してもOSがまったく入れ変わらない人がいっぱいいます。職場も同じで、皆さんも数年後に社会に出るのであれば、OSが古いとすぐに先輩の働き方に染まってしまうので、そういうところもニュートラルに考えて欲しいですね。



### 事件は現場で起きている!

ファザーリング・ジャパンでは、父親が変われば社会は変わると言っています。これから社会でやっていく上で、男性と女性は半々いるわけだから、なるべく女性たちの大変さを意識してあげて欲しいと思います。身近な例で言えば、今日の新聞の一面にも保育所の待機児童1万9千人と出ていました。想像して欲しいんだけど、10年後に結婚して子どもが生まれたとして、生活費の心配もあって妻が働きたいと言った時に、皆さんはどういう風に受けとめるのか。また、社会的にも保育所が足りない中で、そういうことにどう声を上げていくのか。きっと改革が必要だと思うでしょう。

今はちょうどその過渡期ですが、皆さんの意見を聞いてみると、こうなればいいという理想論なんです。でも現実には社会に出て働いてみる、結婚してみる、子どもが生まれる、保育園の待機児童問題で悩む…。すると、日本はこんなに遅れているのかと痛感すると思います。そういった意味で、今日は初めの一歩と思ってほしい。願わくは、彼女がいる人は次のデートの時に同じテーマで話し合っていたきたい。

だって、結局は結婚生活にしても子育てにしても、事件は現場で起きるんだからね。僕、奥さんに何回も言われました。「私ばかりに家のこと押し付けられて、あなたはいいわね、仕事続けられて」って。なかなか理想通りにはいきません。でもそういう時に、今日学んだことや話し合ったことを思い出すことがすごく大事です。ただ、人間すぐに忘れちゃうだろうから、こういう議論を継続させて欲しい。彼女や友達、あるいは自分の親と意見交換して欲しい。そういうことを常日頃からやってください。もしできなかつたら、うちのNPOに来てください。そういうことばかりしゃべってるし、今は学生のチームもあるから。そういうところで多様な生き方を見て欲しいですね。

つまり、これから男女共同参画の問題を解決するには、正しい情報と新しいロールモデルをたくさん知ることが一つの方策かなと思います。だから、こういう場は本当に貴重だと思っています。

### 妻が最も嫌う夫のひと言

皆さんの話を聞いていてちょっと残念だったのが「共生」という言葉が出てこなかったこと。男女間だけでなく、高齢者と若者、障害を持った人とそうでない人、みんなが共生していく意識をぜひ持っていただきたいですね。

ところで、妻が夫に言われて一番ムカつく言葉、何だか知ってますか? 答えは「手伝おうか」です。家事の分担で男性が女性の副担当みたいな立場で「手伝おうか」と言うと、嫌われます。あるいは愛想つかされます。そういう感覚を知って欲しいですね。職場に置き換えてもそう。スタッフとして働いているのに、上の人に「これ手伝いますよ」と言うのは変でしょう?



目的を共有し合っていて、やるべきことは決まっている中で、その発言はない。だから、相手を思いやるにはどういう言い方をすればいいのか、あるいはどう受けとめればいいのか、これから問われてくると思います。

でも、そういうことは経験して感じていくこと。つまり今の男女共同参画の問題にしても、理想と現実の乖離というのが問題です。理想はこうありたいけど、現実はどうかない。そのギャップをどう埋めていくか。自分のこれからの人生、仕事、家庭、プライベートを両立させていく中で「あれ、これなんかおかしいな。なんでうまくいかないんだろう」ということが起こったら、諦めずに自分なりの解決法を求めて欲しい。でも究極で言えば、答えはないんですね。だからアンサーではなくて、ベターで考えて、出たもののベストを尽くすというやり方。これが僕が30年間、生活し働いてきて感じたことです。

幸せはお金で買えるものではないし、結婚して子どもが生まれたら必ず幸せになれるというわけでもありません。本当に一生懸命やって、時々幸せを実感できるものだとは僕は思っています。あまり幸せのイメージを強く持ってしまって、そこに向かっていくと、失敗した時のギャップは激しくなります。



に大変で、女子は大手の会社にはなかなか行けなくて、機会の平等すらなかった。そういう歴史をもう一度知って欲しいというのが、私からの要望です。機会を獲得するためにどれだけ苦労があったか、先ほど「プロセスを共有できたのが一番だ」という意見が出ていましたが、かつてはそのプロセスすら共有できない立ち位置に女性たちがいたということです。ものごとを決定していくところに女性が入っていくことの重要性という点で、プロセスを共有するって大事ですよ。



安藤 歴史を遡ってみると、江戸・元禄時代の文献には、男性が普通に子どもをおぶっている写真がいっぱいあります。東方見聞録には、日本の男性はなんでこんなに子煩悩なんだということがいっぱい出てきます。でも明治以降に男女の役割分担ができてきて、それが戦後の高度経済成長期の主婦モデルとなり、皆さんの家庭が生まれたわけです。

萩原 うちのおじいちゃんは大正時代の人ですが、育児日誌を自分で全部書いていました。つまり子育てというのは、自分の子どもを育てるだけではなく、次の世代を担う人たちを育てて

## 17 プロセスを共有し、 多様なロールモデルを知る

萩原 今回の安藤さんのお話の「古いOSを新しく変える」というのは、私も非常に重要なことだと思っています。女性は「妊娠するとスイッチが入る」ということでしたが、実は男性も変わると言うんです。というのは、うちの夫は私が妊娠した途端に「妊婦がやたら目につく」と言っていました。要は関心を持つということだと思うんですね。やっぱりこの男女共同参画も関心を持っていただくことで、違う広がりを感じたいと思います。

安藤 そうですね。僕も20代の頃は本当に仕事のことしか考えていなかったから、電車の中で子どもの泣き声にカチンときていたのが、35歳で子どもができたならスイッチが入って、OSがバージョンアップした。だからやっぱり関心を持つことですね。育児を自分の生活や人生に取り入れてみて初めて、世の中に子どもってこんなにいっぱいいたのかとか、子どもの笑顔ってこんなにかわいいんだと気づきましたから。

萩原 彼女との関係性という話もありましたが、うちの男子学生も男女共同参画を勉強して彼女との関係性が変わったようです。やっぱり変化していくんですね。私は男女雇用機会均等法がなかった世代です。ですから就職は厳しくて、女子学生は受けたいところも受けさせてもらえない、そういう経験をしました。皆さんのお母さんの世代がそうですね。本当

萩原 男女が共に生きる、まさに共生の社会ですね。その期待の星たちに今日ここに集まっていただき、第一回の100人男子会ができたことをすごくうれしく思います。皆さんもいろいろな考え方を共有できる場は必要だとおっしゃっていましたね。



安藤 ぜひ彼女とも話していただいてね。本来は男女一緒にやるべきんだけど、女子がいると本音を言わないということで今回は男子だけでした。

萩原 では最後に、安藤さんからメッセージを！

安藤 先ほどどこかのグループで「女性の方が選択肢があるじゃないか。男性は働くという一つしかない」と言っていました。確かにそうで、とかく女性が社会的弱者と言われるんですが、男側から見ると、育児をしたいのに残業で帰れないということもあります。これもある種の社会的弱者です。そういう視点を持つことは大事だと思うし、もし自分の周囲にそういう人がいたら助けてあげる、あるいはそういう人たちが生きやすい社会作りをしていくことが重要だと思います。皆さんも社会人になって、会社の名刺だけじゃなく社会的な課題が解決ができるようなチームに属して2枚名刺を持つと、またいろいろな世界が見えるんじゃないかな。会社と家の行き帰りだけをしていると、行き詰まっちゃうかもしれない。僕も転職を重ねたりさまざまな世界を知って、今は仕事一筋だった頃よりもずっと素晴らしい風景を見られています。

萩原 今日はどうもありがとうございました。



いく大切な仕事であるということに関わっていたんだと思います。だから育児の大切さを教えることはすごく大事だと思います。もう1つ、皆さんのお話にも出ていたロールモデル、これも大事です。私は民間企業二つに受かりましたが、二つあるというのは選択肢があるということ。そして、そのうちの一つを選んだ理由は、そこに女性の副社長がいたことです。当時、女性の社長は非常に少なかったわけですが、女性の副社長がいたことで、自分に希望を与えてくれたんですね。もしかしたら私も副社長になれるかもしれない。あるいは社長になれるかもしれない。それがロールモデルだとすると、ここにいる男性たちもこれからいろんな生き方をしていくと思いますが、多様なロールモデルを生み出して欲しいと思います。そういう一人が安藤さんです。

安藤 僕は今50代ですが、同級生の女性はほとんどが専業主婦です。男は単身赴任や海外赴任を経て、50代になって部長とか役員になって人事権を握っているのが、今の30代や20代のイクメンたちはすごく苦労しているようです。でも君たちが10年後15年後に子どもが生まれた時には、今のイクメンたちが管理職になってるでしょう。ということは皆さんが働く頃はもっと良くなっているはずだし、でもそこにはやっぱり女性のいろんな支援が必要なんですよ。

## 参加者の声 (参加者アンケートより)

今日のワールド・カフェで、あなたが「考えたこと」や「気付いたこと」がありましたらお書きください。

愛をもって

人と接することが大事だと感じました

思った以上に  
考え方が  
多様だった

自分が想像していたよりも、  
広い視野や  
考え方、生き方が  
あることを知った

共に生きていく  
事の大切さ

学生のうちは  
男女差が  
見えるところが  
少ない

当事者が意識していくことで  
変化していくものだと思う。  
相手を受け入れ尊重し合い  
共生していくことを  
意識することが必要

もっと将来の自分の  
「人との付き合い方」を  
考えたいなと思いました。

“働く”だけが  
すべてではないという意識を  
忘れないようにしよう  
と思った

今日のワールド・カフェへの御意見・御感想を  
どうぞ御自由にお書きください。

知らない自分を  
知れてよかった

自分と違う視点の  
人の意見が  
面白かったです

男子学生だけ  
というのが  
おもしろかった

同年代で濃い話が  
出来て有意義でした

全部のテーブルの  
アウトプットが見たい!

非常に楽しく  
充実した時間でした。  
また別のテーマでも  
開催していただきたいです

同じ空間で  
女子だけの話し合いの場が  
あってもいいかなと思いました。

# ワールド・カフェを終えて



## 古瀬 正也

今回のワールド・カフェを終えて、改めて、強く思ったことは「語り合う重要性」でした。「男女共同参画」というテーマを実際に語り合ってみることで、相手の考えを聞きながら、はじめて、自分の考えも明らかになっていきます。

特に、印象に残ったことは、「差をうめることは、本当に幸せにつながるのか？」という懐疑的かつ本質的な意見が出たことでした。もちろん、「男性だから…」「女性だから…」というような固定概念や男女の活躍を阻害する社会的要因は是正されていく必要があると思います。しかし、「差をうめること」それ自体は「目的」ではなく、「手段」なのではないでしょうか。つまり、「差をうめること」の先に何を求めているのか、それぞれがどう生きていきたいのか、という生き方が重要であると思います。生き方を考える、そこから「男女共同参画」は始まるのかもしれない。

今回、このワールド・カフェで語り合ったことは、必ずしも、参加者の日常生活をすぐに変化させるものになるとは思いません。ですが、ふとした瞬間に今回の「気づき」や「学び」を思い出して、日常生活で「男女共同参画」の視点で物事を考えることができることを願っています。

## 小川 直也

今回のワールド・カフェを終えて、「自分の想いや考えを話すこと」が重要であると認識するワークショップでした。男性にとって「男女共同参画」というテーマに触れる機会は、正直まだまだ少ない中、多くの男子学生が興味を持っていたことに、私は勇気や希望を与えてもらいました。そして、これだけの多くの学生が意識をしているならば、「男女共同参画」は進歩していくのだろうと確信しました。

とくにワールド・カフェでは、個々の考えを熱く主張し、お互いの考えを尊重しあう議論を男子学生たちは行っていました。ファシリテーターとして、彼らから男女にかかわらず、人間としてお互いを尊重し、思いあう発言が聞こえてきました。このような発言が聞こえてくる場と時間、彼らにとって、今後人生において重要な時間として大切に保存されるはずだと思います。

このワークショップを経験したことで、彼らが将来の日本社会に多くの影響を与え、「男女共同参画」に対する自分たちの想いを実現してくれると私は信じます。

